

会期中は大きなトラブルもなく順調に進められました。ワークショップはさまざまな企画があり、特に、遺伝学会若手の会主催で参加者の活発な交流を企画した～いきなり遺伝学～や、高校で生物選択者が減少している問題に焦点を当てた討論会など、かなり盛り上がったと思います。シンポジウムでは、熊本大学理学部と天草酒造が共同開発した世界初の分裂酵母を用いた芋焼酎の話題を含むお酒造りに関する講演を行いました。また、総会の前にはくまモンステージを開催しました。

週末の公開市民講座は、熊本大学本荘キャンパスにおいて2部構成で開催しました。第1部は『宇宙環境と遺伝』というテーマで宇宙マウスを利用した研究を中心とした講演会、そして第2部ではハダカデバネズミの観察などの「体験講座」を開催しました。

大会全体としては、久しぶりの、全く制限のない対面開催を楽しんでいただけたものと思います。末筆になりますが、大会を助成していただいた肥後医育振興会様、大会を共催していただいた文科省科研費新学術領域『非ゲノム情報複製』と遺伝子研究安全管理協議会（遺伝子協）、そして協賛していただいた企業展示15社、広告15社、寄附1社の皆様を含め、開催を盛り上げていただいたすべての皆様に、感謝を申し上げます。

第78回日本大腸肛門病学会学術集会 報 告

第78回日本大腸肛門病学会学術集会
会長 辻 順行



この度、第78回日本大腸肛門病学会学術集会の会長を拝命し、2023年11月10日（金）、11日（土）の2日間に亘り、熊本市内の熊本城ホールにて開催いたしました。

本学術集会の熊本開催は、2016年の熊本の2回の大震災、2020年の7月人吉地区の豪雨災害、九州中に発生した豪雨災害で被災された方々と医療施設の復興支援の一助のための学術集会とも位置づけしており、副会長として猪股雅史先生（大分大学）、江崎幹宏先生（佐賀大学）、野明俊裕先生（くるめ病院）を迎え、one



team となって all 九州で、コロナ禍の新しい生活下での学術集会を運営致しました。

今学術集会のメインテーマは「覧古考新（古い事柄を顧みて新しい問題を考察する）」と致しました。したがって、礎となる先生方による発表から最新の研究テーマの発表を織り交ぜ、女性医師のセッション、team 医療によるセッション、エビデンスに基づいた肛門疾患のセッション、外科、肛門科、内科の教育セミナーも企画させていただき、研修医師から指導医の先生方まで興味のある主題テーマといたしました。特別講演として、中央大学岡嶋裕史先生によるサイバー攻撃についてお願いしました。適時適切な話題としては、2024年から始まる医師の働き方改革の講演を熊大消化器外科の馬場秀夫先生にお願いし、演題は、約1,130題集まりました。

さらに震災、豪雨災害、復興をテーマとして武田真一アナウンサー（熊本出身）の主導で、熊本県立劇場館長姜尚中先生、国会議員の先生、熊本赤十字病院から災害時の専門医師の先生、人吉保健所長で医師の先生、被災された熊本県民の方、主にボランティア活動をされている方、以上6人の発表者と県民の参画による市民公開講座も学術集会2日目の午後に最も広い第1会場を使用して開催し、約700人の参加がありました。

2日間で、参加登録が約2,850人あり、どの先生からも「素晴らしい」との感想を頂き、大成功裏に終了致しました。

